

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床化学Ⅱ	2年次	必修	講義	1単位（30時間）	小丸 圭一
授 業 概 要					
分析用機器の進歩により、生化学的検査のほとんどが自動化されており反応を直接目でみることができない。体液中の特定の成分だけを特異的に測定する分析化学の基本原理を理解し、正常値の意義、検体の取り扱い方精度管理、測定結果の臨床的意義について修得する。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> 臨床化学は単なる分析化学ではなく、臨床と密接に結びついていることを認識する。 精度管理に関する考え方や計算、作図ができる。 代表的な血清成分の正常値を覚え、正常値と疾患との関係が理解できる。 各測定法の原理と特徴及び影響物質について説明できる。 					
回	学 習 内 容				担当教員
1	含窒素成分：窒素代謝と病気、アミノ酸、アンモニア、尿素				小丸 圭一
2	含窒素成分：クレアチン・クレアチニン、尿酸、ビリルビン				
3	酵素：酵素と疾患、酵素活性測定法				
4	酵素：乳酸デヒドロゲナーゼ、アミノ基転移酵素				
5	酵素：クレアチンキナーゼ、コリンエステラーゼ、γグルタミルトランスフェラーゼ				
6	酵素：酸性及びアルカリ性ホスファターゼ、ロイシンアミノペプチダーゼ、アミラーゼ、その他の酵素				
7	脂質：脂質代謝と疾患、リポタンパク、コレステロール、中性脂肪				
8	脂質：リン脂質、脂肪酸、過酸化脂質、その他の脂質				
9	ホルモン：下垂体・甲状腺、副腎髄質、消化管ホルモン、その他のホルモン				
10	ホルモン：ホルモンの異常と疾患				
11	薬物及び毒物：関連物質血中薬物、毒物の測定意義、薬物、毒物、				
12	腫瘍マーカー：腫瘍マーカーの測定法、正常範囲、代表的腫瘍マーカー				
13	機能検査：肝・胆道系機能検査				
14	機能検査：内分泌・腺外分泌機能検査				
15	臓器機能と病態：肝機能、心・循環器機能、骨代謝機能、酸塩基平衡機能、その他の機能				
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> 教科書及び配付資料を用いて講義する。 事前に予習をしておくことが望ましい。 					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> 項目毎に数回の小テストを実施する。 遅刻や欠席等で小テストを受験しなかった場合は0点とするが、正当な理由がある場合は追試験を実施する。 定期試験（70%）及び小テスト（30%）により評価する。 再試験も同様であるが、小テストは実施しない。 					
先 修 科 目					
生物学、化学、生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、検査機器学、検査管理学、臨床基礎検査学					
教科書、参考書					
〔教科書〕 臨床検査学講座 臨床化学検査学 浦山 修 他 医歯薬出版					